

「水環境学会誌」原著論文編執筆要領

1. 一般的注意事項

- ① 原稿の本文は、日本語とする。ただし、図表については英文を推奨するが和文も可とする。
- ② 原稿は、内容が独立して完結しているものとし、論文題名に「第〇報」的な通し番号は含めない。
- ③ 和文要旨では、研究の目的、結果、得られた重要な知見や論点をまとめること。要旨本文は 400 字を超過してはならない。また、5 語以内のキーワードを選び和文要旨の下部に記入すること。
- ④ 英文要旨は、和文要旨と同様の内容を 200 語以内で記述し、その下部に 5 語以内のキーワードを記入すること。投稿原稿の英文題名、英文要旨およびキーワードは、英文校閲を実施する。原則として第 1 回修正原稿を対象として原著論文編集部会が専門家に英文校閲を依頼し、その結果を後日著者宛に送付する。英文校閲結果は強制力を持つものではないが、著者は英文校閲の結果を十分に参考にし、英文題名、英文要旨およびキーワードを修正する。この英文校閲にかかる費用は、(公社)日本水環境学会が負担する。
- ⑤ 本文の区分けは、以下に例示した記号を用いること。また、大見出し、中見出し、小見出しなどは、明瞭にすること。

[例]

2. 研究方法

2.1 分析方法

2.1.1 微生物学的方法

(1) 一般細菌数

(a) 培地

- ⑥ 句読点には“,” および“.” を用い、“、” や“.” などは用いないこと。
- ⑦ 本文中で使用する単位は SI 単位系に従って表記することを原則とする。ただし容量単位は、リットル (L) あるいは立方メートル (m^3) を用いることを原則とし、特別に必要な場合を除き、立方デシメートル (dm^3) は使用しないこと。組立単位は、 mg L^{-1} , m s^{-1} , $\text{W m}^{-2} \text{K}^{-1}$ のように記し、中黒点「・」は使用しないこと。
- ⑧ 生物名は和名の場合カタカナを用い、学名はイタリック体にすること。
- ⑨ 図表は通し番号をつけること。
通し番号の付け方 Fig. 1, Fig. 2, … もしくは 図 1, 図 2, …
 Table 1, Table 2, … もしくは 表 1, 表 2, …
- ⑩ 写真は図として取り扱う。従って、扱いはすべて図に準じ、番号も図と同一の通し番号を使用する。また、図(写真を含む)は、白黒に限らない。但し、受理後の別刷は白黒印刷が標準で、カラー印刷は追加費用が必要となる。別刷料金は『「水環境学会誌」原著論文編投稿要領』を参照のこと。
- ⑪ 図表および写真は、刷り上り論文において一段幅いっぱい(幅約 80 mm)に収めることを原則とし、これが困難な場合に限り、二段幅いっぱい(幅約 170 mm)となることを念頭において作成すること。そのために図表が縮小された場合でも図表内の文字が小さくなり過ぎないように注意すること。
- ⑫ 数式は、数式エディタ等を利用して鮮明に作成すること。また、本文を改行して記述し、(1), (2), (3)・・・のように通し番号を付すこと。
- ⑬ 本文中で参考文献は、引用順に右肩に片かっこ(例: ¹⁾, ^{1, 2)}, ^{1~5)}, ………)で示し、原稿末尾において番号順の一覧にすること。その記載方法は「3. 参考文献の記載方法」を参照すること。
- ⑭ 謝辞(必要な場合)、記号表(特に使用記号が多い場合に作成することが望ましい)は本文末尾の参考文献の前に記す。
- ⑮ その他、表記方法についての不明な点は見本を参照し、それに準じて原稿を作成すること。見本は、本会ホームページからダウンロードできる。

2. 投稿原稿の体裁

- ① 投稿原稿は、表紙、和文要旨、和文キーワード、英文要旨、英文キーワード、本文（謝辞、付録、記号表、参考文献を含む）および図表で構成され、表紙から通し行番号とページ番号をつけた、一つの文書ファイル（DOC(X)形式に限る）とすること。また、②～⑤に記された体裁となるように作成すること。なお、投稿原稿の見本が本会ホームページからダウンロード可能である。
- ② 表紙には、A4 判 1 ページに表題（和文および英文の両方）、著者名、所属を記すこと。
- ③ 和文要旨と和文キーワード、英文要旨と英文キーワードは、それぞれ A4 判 1 ページに納まるように作成すること。
- ④ 本文は、A4 判 1 ページあたり 1400 字程度を目安にして、マージン、文字数、行数、文字サイズを設定し、見やすく作成すること。
- ⑤ 図表は、本文とは別にして図表ごとにページを分けて作成し、それぞれに図表の通し番号およびタイトルを記すこと。
- ⑥ 投稿原稿は、アップロード後に PDF ファイルに自動変換される。その際、文字化けや数式のずれなど、体裁に不備がないかを必ず確認すること。ファイル容量は、20MB 以下にすること。なお、掲載決定後、紙面作成上の問題がある場合には、別途指示されたファイル形式の掲載用原稿の提出を求められることがある。
- ⑦ 投稿原稿の内容を補足説明する図表等を、投稿原稿とは別に、補足資料（サプリメンタルインフォメーション）として添付することも可能である。この場合、補足資料として受付可能なファイルは、DOC(X)あるいは PDF のみであり、投稿原稿本体とは異なるファイルとし、書式は任意とする。また、アップロードされた補足資料は、本文とは別の PDF ファイルに自動変換される。補足資料として図表を掲載する場合は、本文中の図表とは独立した通し番号をつけることとする。

補足資料の図表の通し番号の付け方

Fig. S1, Fig. S2, ... もしくは 図 S1, 図 S2, ...

Table S1, Table S2, ... もしくは 表 S1, 表 S2, ...

なお、DOC(X)あるいは PDF 以外のファイル形式の補足資料が必要な場合には、筆者自身のウェブサイト等で公開すること。

3. 参考文献の記載方法

下記の記載例に倣ってください。その際に、姓名、年、タイトル、雑誌名などの順番、英語 First name のイニシャル表記と順、ピリオド、コンマ、ブランク、などの位置、立体、斜体などにも注意を払ってください。

雑誌論文記載例

- 1) 岩田杉夫, 遠藤忠嗣, 井上隆信, 横田久里子, 大久保陽子, 2013. 中小河川からの栄養塩負荷の流出特性. 水環境学会誌 36(2), 39-47.
- 2) Gunawardana, E.G.W., Satoh, H., Mino, T., 2014. Analysis of bacterial communities in treated water and activated sludge and evaluation of an easy methodology for preparing PCR-compatible DNA extracts. Journal of Water and Environment Technology 12(1), 1-12.
- 3) Kikuchi, M., Wakabayashi, M., Kojima, H., Yoshida, T., 1980. Bioaccumulation profiles of ³⁵S-labelled sodium alkylpoly(oxyethylene) sulfates in carp (*Cyprinus carpio*). Water Research 14(10), 1541-1548.
- 4) 吉村孝一, 中栄篤男, 1982. 活性汚泥による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム (LAS) の生分解性に関する研究 (I)—LAS の吸着機構について. 水質汚濁研究 5(1), 19-25.
- 5) Chys, M., Audenaert, W.T.M., Deniere, E., Mortier, S.T.F.C., Van Langenhove, H., Nopens, I., Demeestere, K., Van Hulle, S.W.H., 2017. Surrogate-based correlation models in view of real-time control of ozonation of secondary treated municipal wastewater—model development and dynamic validation. Environmental Science & Technology. DOI: 10.1021/acs.est.7b04905

単行本記載例

- 6) Fogg, G.E., 1975. Algal Cultures and Phytoplankton Ecology, 2nd ed. Univ. of Wisconsin Press, Madison, WI, USA, p. 125.
- 7) Newman, J., Thomas-Alyea, K.E., 2004. Electrochemical Systems, 3rd ed. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken, NJ, USA, pp. 193-195.
- 8) von Sonntag, C., von Gunten, U., 2012. Chemistry of Ozone in Water and Wastewater Treatment: From Basic Principles to Applications. IWA Publishing, London, UK.
- 9) 合田健, 1975. 水質工学 (基礎編). 丸善, 東京.

編著本記載例

- 10) 坂本充, 1982. § 3 湖沼の富栄養化. 社団法人日本水質汚濁研究協会編, 湖沼環境調査指針. 公害対策技術同友会, 東京, pp. 11-13.
- 11) Bierman, V.J.Jr., 1976. Mathematical model of the selective enhancement of blue-green algae by nutrient enrichment. In: Canale, R.P. (Ed.), Modeling Biochemical Processes in Aquatic Ecosystems. Ann Arbor Science, Ann Arbor, MI, USA, pp. 1-29.
- 12) Zhang, X., Echigo, S., Minear, R.A., Plewa, M.J., 2000. Characterization and comparison of disinfection by-products of four major disinfectants. In: Barrett, S.E., Krasner, S.W., Amy, G.L. (Eds.), Natural Organic Matter and Disinfection By-Products: Characterization and Control in Drinking Water. American Chemical Society, Washington, DC, USA, pp. 299-314.

ウェブページ記載例

- 13) U.S. EPA, 2007. EPI Suite, Version 3.20. URL. <http://www.epa.gov/opptintr/exposure/pubs/episuite.htm> (2008 年 10 月時点).
- 14) 農林水産省動物医薬品検査所, 2008. 動物用医薬品等データベース. URL. http://www.nval.go.jp/asp/_dbDR_idx.asp (2009 年 12 月時点).
- 15) 環境省, 2011-2012. 平成 21-22 年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書. URL. http://www.env.go.jp/policy/hakusho/past_index.html (2012 年 9 月時点).

報告書記載例

- 16) 古米弘明, 2012. 非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究. 平成 23 年度環境省環境研究総合推進費成果報告書 (RFb-11T1). 社団法人日本水環境学会, 東京.

4. その他

本要領は、水環境学会誌原著論文編集部会の任とする。

(平成 21 年 2 月 9 日制定)
(平成 22 年 3 月 24 日改正)
(平成 22 年 12 月 6 日改正)
(平成 23 年 2 月 24 日改正)
(平成 23 年 10 月 1 日改正)
(平成 24 年 11 月 26 日改正)
(平成 26 年 7 月 28 日改正)
(平成 27 年 11 月 5 日改正)
(平成 29 年 3 月 16 日改正)
(平成 30 年 5 月 8 日改正)
(令和 4 年 2 月 28 日改正)